

なかよし		国語学習活動案		授業者	直井 秀樹
題材名	くつつきの言葉で連想ゲーム				
本時のねらい	(教科) ・助詞の「は」「を」の使い方になれ、正しく使うことができる。 (表現力) ・持ってる語彙を自由に使い、文で表現することができる(書) ・自分の考えをみんなに聞こえる声で最後まで話すことができる。(聞く話す)				
願う子どもの姿	<b>助詞の「は」「を」を正しく使った連想作文を書くことができ、みんなに聞こえる声で発表することができる子。</b> A ・ ・助詞を正しく使った文を三つ以上書くことができる。(書) 自分の考えをみんなに聞こえる声で話すことができる。(聞く話す) B ・ ・作文ゲームの活動に意欲的に取り組むことができる。(関) 文末まで話すことができる。(聞く話す) C ・ ・持っている語彙と助詞を正しく使って5文以上書くことができる。(書) 自分の考えをわかりやすく伝えようすることができる。(聞く話す)				
	学習活動			意欲を持って話すことができるための手立てと評価	
つかむ	<b>1、作文の学習に向かう意欲付けをする。</b> ・単語二つを接続する助詞をクイズ形式で出題する。 (例：かえる、と、みどりの間に入る助詞はなんだろう。)			・黒板にカードを貼りながら言葉と視覚両方でもとらえやすいようにする。 (授業に向かう気持ちを高めやすい質問をする) 分かったことを意欲的に発表することができる。(関)	
深める	<b>2、連想ゲームのやり方を知る。</b> 連想ゲームの例題を見て四角の中にどの助詞が入るかを考える。  助詞の下に来る言葉が、次の文の上の言葉になることを知る。  決まりを理解した上で例文をもう一度読んでみる。			・見やすいように大きな紙に書いたものを準備する。  例文を見て気がついたことをわかりやすく発表することができる。(話)	
	<b>3、助詞の「は」を使った連想ゲームに挑戦する。</b> ワークシートを利用して文を書く。 (「は」の下に書いた言葉を、次は「は」の上を書く。)			・初めの言葉を思い浮かばない児童に対しては、書きやすい言葉を指定する。 ・机間巡視をしながら、できている文について赤でまるをつけていく。 助詞の「は」を正しく使った文章を作ることができる。(書)	
	書いた文章がおかしくないか読み返す。			・「は」が正しく使えているか。下についた言葉が次の文の上になっている。の二つの項目をチェックさせる。	
	<b>4、書いた文を発表する。</b> 自分が連想した文をみんなに聞いてもらう。			みんなに聞こえる声で話すことができたか。(話) みんなの作った文章をしっかりとつながっているか確認しながら聞くことができる。(聞)	
まとめ	<b>5、まとめ</b> ・今日の学習で分かったことを発表する。 ・がんばったことや仲間のよかったところなどを発表する。			みんなに聞こえる声で最後まで発表することができる。	